



RENOVATION SCHOOL REPORT

01 2011 APR – 2013 MAR 04

躍動しはじめた、 ヒトとマチ。

スラム化していた商業テナントビル。
十年以上放置され続けていたテナントフロア。
数十年の間、時間を止めたまま静かに佇んでいた木造廃屋。
過去の栄華さえも見る影を失った作業場。

こんな光景も当たり前になってしまった現在。

それらが、若手手作り作家たちの工房や販売スペースに、
WEBデザインや編集者ら若手事業家が集まる協働型のスモールオフィスに、
古民家と中庭を愛でながら文化活動を行うレンタルスペースに、
音楽をテーマにしたカフェに、それぞれ躍進を遂げた。

約二年間で新たに生まれた新規事業者／雇用者数は190名を超える。
右肩下がりの周辺エリア回遊人口もV字回復中。

遊休化した街のストックを活用した民間主導型の
まちづくり事業の中核を担う「リノベーションスクール」。
ここに全国の地方都市再生のヒントが隠されている。



生まれ変わっていく遊休不動産。

まちは急に変わらない。実績をひとつひとつ積み上げていく。それが大きな力につながる。
そしてまちが変わっていく。北九州の一連の取り組みをきっかけに実現化した案件たち。
リノベーションスクールはリノベーションまちづくりのエンジンだ。



うおまちのにわ 三木屋

小倉の中心地にありながら、約20年の間、住み手を失いRC造の商業ビルに囲まれたまま放置されていた中庭と築約60年の木造家屋。傷みがひどかった一部家屋を撤去しつつ母屋を残し、当時の面影をできるだけ継承しながら最低限の補修にとどめ、地域の文化交流拠点となるべくレンタルスペースとして事業化された。第2回スクールの対象案件。落語や演劇、講演やパーティなどとして利用されており、2013年5月には三木屋カフェもオープンした。

北九州市小倉北区魚町3-3-5
【構造・規模】木造、地上2階



音楽をテーマにしたカフェ Rocota Cafe

小倉駅からほど近い繊維等の旧問屋街。高度成長期を下支えしてきたこの街も今では閑散としてしまっている。その中にある尾崎繊維ビル。自社ビルオーナー家族はみんな音楽好き。東京からUターンした三男が一念発起し、試行錯誤の上、一部セルフリノベーションしながら生まれた音楽好きが集える「Rocota Cafe」が2013年6月にオープン。カフェに行くと、天井の高いレトロな空間とともに、JBLの巨大スピーカーとグランドピアノ、そして三男の笑顔がお出迎えてくれる。第3回スクールの対象案件。



北九州市小倉北区京町4-3-10
【構造・規模】鉄筋コンクリート造(1~3階)
鉄骨造(4,5階)、地上5階
【築年】1967年(昭和42年)完成
1973年(昭和48年)4,5階増築



商店街のクリエイティブ拠点 中屋ビル

小倉の中心街魚町、以前は婦人服店にほぼ一棟貸ししていた巨大ビル。婦人服店の撤退に伴って、あっという間に空きビル同然になってしまった。それが若手を中心とした物販・飲食店舗や事務所など10件が集積したメルカート三番街へ(2011年6月オープン)、シェアデスクや作家活動スペース、まちの集会所などの機能を有すフォルム三番街へ(2011年7月オープン)、手作り作家のための物販店舗兼工房が集積したポポラート三番街へ(2012年4月オープン)、それぞれ生まれ変わった。地下には北九州10大学の学生が集う「北九州まなびとESDステーション」もオープン(2013年3月)。現在も、小倉家守構想(P.6参照)のリーディングプロジェクトとしてビルオーナー梯輝元と嶋田洋平(らいおん建築事務所)らの手によって段階的にリノベーションが進められている。

北九州市小倉北区魚町3-3-20
【構造・規模】鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・木造
地下1階・地上5階
【築年】1967年(昭和42年)完成
1973年(昭和48年)増築



協働型のスモールオフィス MIKAGE1881

北九州市の中心街、魚町の真ん中にあるテナントビル。その5Fの約50坪は飲食店が撤退してから10年ほど空きテナントのままだった。2012年10月、スモールオフィスとシェアデスクのワークスペースに生まれ変わる。第2回スクールの対象案件。入居者は、Web系デザイナーやライターなど編集系の30代を中心とした若手クリエイターたち。入居者自らランチ会やMIKAGEバーなどのイベントを開催し、内外の交流を深めている。

北九州市小倉北区魚町2-1-7 松永ビル5階
【構造・規模】鉄骨造、地上6階
【築年】1988年(昭和63年)



3.19、リノベまちづくりの物語はここからはじまった。

3.11、東日本大震災発生約一週間後、開催も危ぶまれた中、全国から200人以上が集った「リノベーションシンポジウム北九州」。偶然の出会いから生まれたこの催しは、今思うと、これからはじまる物語を予期したような必然の出会いだった。

HEAD研究会とリノベーションシンポジウム

一般社団法人HEAD研究会は、「日本の建築と部品の潜在能力を解き放つ」をテーマに掲げ、東京大学教授の松村秀一や建築家の松永安光らが立ち上げた研究会であり、各研究部会は8つのタスクフォース（TF）に分かれる。うち、大島芳彦（ブルースタジオ）が委員長を務めるリノベーションTFでは、現在の建築／都市のリアリティと将来へのヒントは地方にあると、リノベーション（※1）に関する事例調査研究と情報交流等のため全国の各地方都市でシンポジウムを展開する（2010年3月大阪、同年6月鹿児島、同年10月東北、その後、北九州での開催（2011年3月19日）を経て、2011年11月金沢、2013年2月熱海）。

一つ目のはじまりは、鹿児島開催での偶然の出会いだった。

現リノベーションスクール@北九州の代表を務める徳田光弘（九州工業大学）は、旧縁あって鹿児島の運営に参画したことをきっかけに、HEAD研究会リノベーションTFのアツク気持ちのよい面々と出会い、この勢いを北九州にもと北九州開催を熱望する。後に、リノベーションスクール対象案件の実案件化をサポートする「株式会社 北九州家守舎（※2）」を共に立ち

上げ、代表取締役を務めることになる北九州出身の嶋田洋平（らいおん建築事務所）も鹿児島からの参画だ。

「地域リノベーションの射程〜リ・イノベーションプロジェクトvol.0〜」と題された北九州のシンポジウムは、これまでにならって三部構成で開催された。

第一部「北九州の産業・職能・地域のリ・イノベーション」では、北九州市産業経済局長（当時）の片山憲一、松村秀一（東京大学）、清水義次（アフタヌーンソサエティ）によるフリーディスカッション。第二部「地域からはじまるリノベーション」では、福岡・北九州を拠点に活躍されているリノベーターの方々による活動の紹介。ちなみに第二部には、前記「株式会社 北九州家守舎」の立ち上げメンバーの一人となるcafé causaオーナーの遠矢弘毅（ユナイトヴィジョンズ）も先駆的リノベーターの一人として登壇者に名を連ねていた。

そして、第三部「北九州リノベーションの胎動」では、これまでにない新しい試みがなされた。以降、伝説とまで呼ばれるようになった通称「リノベ大喜利」である。リノベーター9名（内山章、大島芳彦、佐々木龍郎、島原万丈、



リノベーションシンポジウム北九州の様子

新堀学、高橋マサル、中谷ノボル、長坂常、馬場正尊）と学生有志がグループに分かれ、お題となった北九州に実在する物件を対象にリノベーション提案を行う。200人以上の来場者らは、提案者に鋭い質疑（ツッコミ）を投げかけ、提案者の応答の善し悪しによって座布団をやり取りする。提案者らは、前日入りして対象物件をリサーチし、シンポジウムまでの24時間で提案をまとめなければならず、この過酷な条件の中で座布団によって審査までされるのである。笑い感動とともに、会場全体が一体となった3.19、リノベーションシンポジウム北九州。

この「リノベ大喜利」の試行がリノベーションスクールの原型であり、ここでの出会いが北九州におけるリノベーションスクールを基幹としたリノベーションまちづくり躍進へのきっかけとなった。

（※2）株式会社 北九州家守舎

リノベーションスクールの対象物件を実事化するためには、各物件オーナーをサポートし、場合により投資リスクを分担できるような存在が不可欠と、嶋田洋平を代表取締役、遠矢弘毅、徳田光弘、そして第1回スクール@北九州の受講生であった片岡寛之（北九州市立大学）により立ち上げられた民間組織。

小倉家守構想

他方でもリノベーションまちづくりの胎動ははじめていた。

HEAD研究会常務理事でもある都市再生のプロデューサー清水義次は、2010年度、北九州市から依頼を受け「小倉家守検討会」を立ち上げる。実践力のある方をと、前記の徳田光弘を含め地元の産官学メンバーが招聘される。そのメンバーの一人が中屋ビルオーナー梯輝元（中屋興産）である。梯輝元はこの検討会への参加をきっかけに、先代より縁故があった嶋田洋平とともに、自身所有の中屋ビルで北九州で最初のリノベーション事業「メルカート三番街（2011年6月オープン）」を手がけることになる。

検討会で議論された内容は、リノベーションシンポジウム北九州の開催と時を同じくして、

清水義次のもと「小倉家守構想（2011年3月）」としてまとめられた。

小倉家守構想のテーマは、遊休不動産活用と質の高い雇用創出を掛け合わせて、産業振興とコミュニティ再生を実現することにある。そのコア事業がリノベーションスクールであり、スクールを基軸に、持続的な人材輩出と連続的プロジェクトの創造を進めていくことで、多様な都市型産業の集積を目指す。

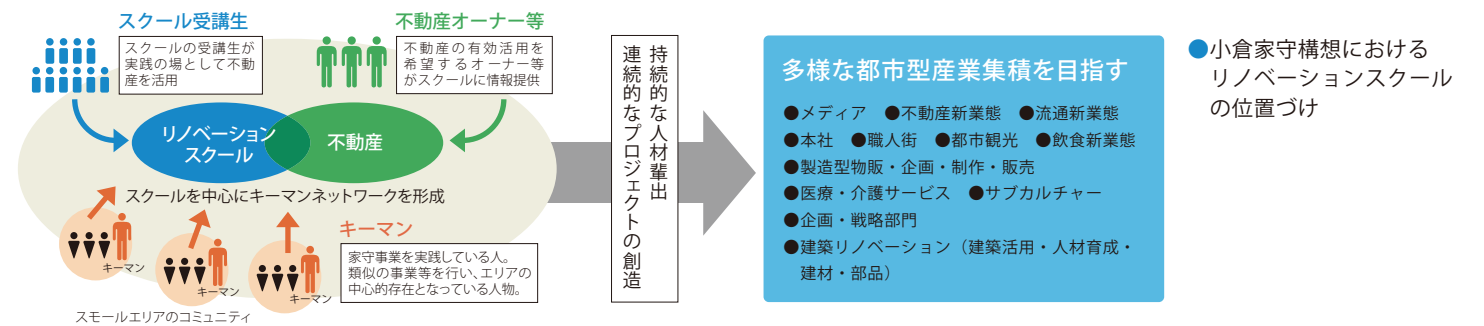
つまり、シンポジウムで試行した「リノベ大喜利」は、小倉家守構想において表明されたリノベーションスクールのパイロットモデルとして、後の布石になるよう周到に準備された企画であった。想定した以上の盛り上がりを見せたこと以外は、

この構想を直ちに実行に移すべく、2011年4月には梯輝元を会長に地元の産官学連携任意団体「北九州リノベーションまちづくり推進協議会」を発足。第1回リノベーションスクール@北九州の夏開催に向けて、HEAD研究会リノベーションTFや北九州市らとともに準備に入ることになる。

（※1）リノベーションとリノベーションまちづくり

広義には「建築物の用途や機能を変更・更新し、性能を向上させる行為（『住宅建築のリノベーション（1998年7月、鹿島出版会）』）」といえ、建設省（現国土交通省）によると、リフォームとリノベーションの違いは、「リフォーム：新築時の目論みに近づく様に復元する、リノベーション：新築時の目論みとは違う次元に改修する」とのことである（ただし出処不明）。

リノベーションスクールが目指す「リノベーションまちづくり」とは、まちにある遊休ストックをリノベーションの手法を用いて再生することで、まちの産業振興、雇用創出、コミュニティ再生、エリア価値の向上などを図ることである。



●小倉家守構想におけるリノベーションスクールの位置づけ

リノベまちづくりのエンジン、リノベーションスクールとは何か？

2011年8.27 ～ 8.30に記念すべき第1回を開催し、その後、第2回（2012年2.16～2.19）、第3回（2012年8.30～9.2）、第4回（2013年3.21～3.24）が開催され、回を重ねる毎に改良が加えられ、そして拡大しているリノベーションスクール。リノベーションスクールとは一体どのような狙いをもとに、どのような仕組みなのか？ここで今一度解体してみよう。

スクールの役割

対象案件の実現化とリノベまちづくり事業の伝播

リノベーションスクールは、低迷している地方都市でリノベーションまちづくりを推進するとともに、遊休ストック活用型の社会へのイノベーションを加速化させることを目的としている。スクールの役割は二つ。
①スクールの対象となった実在の遊休案件を、スクール後、実事業化するための足がかりになること。
②受講生がスクールで得た知識と技術を生かして、各々の地域や業界でリノベーションまちづくりの実践へと結びつけること。
極めてクリアである。

カリキュラム

ユニットワークとレクチャーの連動により実践的に学ぶ

スクールは四日間で行われる。カリキュラムの主軸となるのがユニットワークである。各回スクールには、北九州市中心市街地周辺に実在する遊休案件が、案件オーナー等の協力により4～5件持ち込まれる（P.14参照）。受講生は、10名前後のユニットにそれぞれ分かれ、1ユニットが1案件を担当し、四日間でリノベーション事業計画を立案、最終日に公開の場で「スクール後に実事業化させること」を前提に、「案件オーナー」へプレゼンテーションを行う。受講生のユニットワークを手助けするのが、各ユニット2名程度ずつ専属で配されるユニットマスターである（P.10参照）。ユニットマスターは、各ユニットワークを優れたリノベーション事業計画へと導くファシリテーターとして機能する。最終日の公開プレゼンテーションは、実事業化への極めて重要な分岐点。受講生のみならずユニットマスターや関係者にも緊張が走る、まさに真剣勝負である。

ユニットワークに挟み込まれた各レクチャーは、ユニットワークの各段階に応じて必要となる知識と技術を学ぶ場である。エリアや対象案件の読み取り方、対象案件・エリアの見立て方、事業計画や事業収支の組み立て方、プレゼンテーションの技術など。各ユニットワークでやるべきことの道しるべとなる。このように、ユニットワークでの実践とレクチャーでの座学の連動により、リノベーションの建築技術のみならず、リノベーションまちづくり事業のノウハウを獲得していく場がリノベーションスクールだ。

スクールで学ぶこと

エリアを見よ、事業収支から目を反らすな

スクールで具体的に何を学ぶのか。リノベーションに関する各種技術はもとより、スクールで学ぶリノベーションまちづくり事業の実践者になるために必要な二つの特徴について触れる。
一つ目の特徴は、当該事業計画が対象案件に価値や利益を与えるのみならず、案件を含む周辺エリアにどのような価値や利益をもたらすのか、リアリティをもって描くことを徹底して叩き込まれることだ。
「不動産とはすべからく公共財である（岡崎正信）」、「建物に価値なし、エリアに価値あり（清水義次）」は、スクールで生まれた名言の一部だ。そのためには、案件のみならずエリアを熟知しなければいけない。つまりこうだ。「まちにダイブせよ！（清水義次）」。
二つ目の特徴は、当該事業の収支計算を算出し、実現性の高い事業計画の立案を徹底

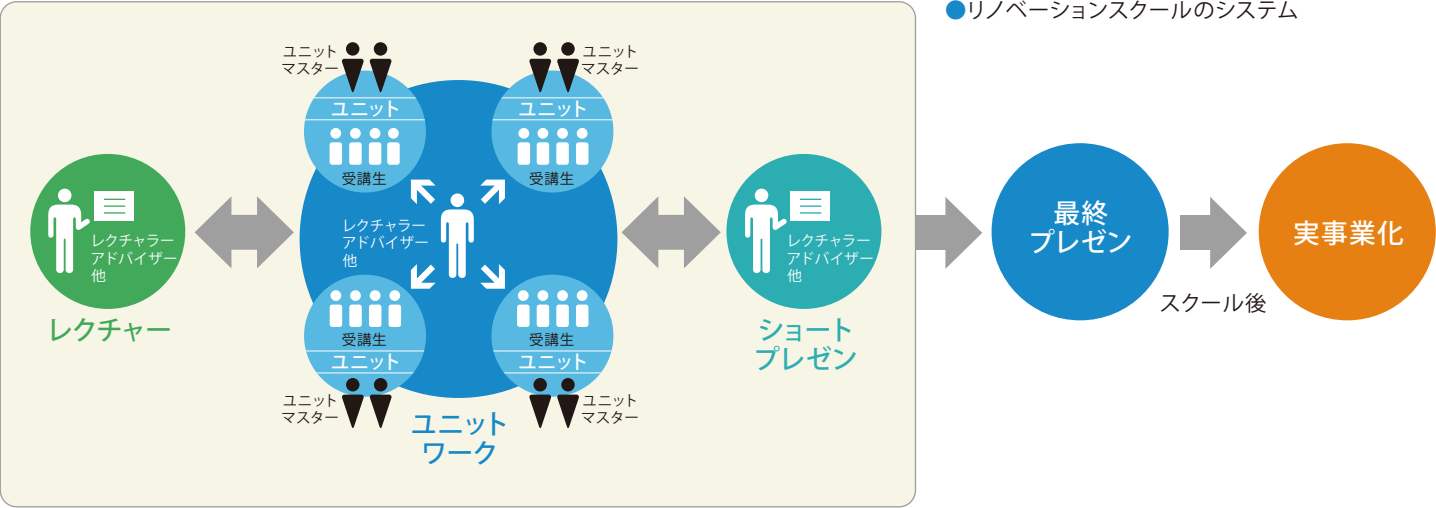
することだ。いくら耳聞こえの良い事業提案であったとしても、机上の空論であれば0点だ。回収計画が立たないなど、事業として成立していない提案はもとより、行政の補助金に頼りきった継続性のない事業、見えない価値という名で誤摩化したキャッシュフローを生まない事業などは、一瞬で駆逐される。投資／回収は健全か？誰がいくらのお金を掛けて、それがいつまでに回収でき、その後いくら儲かるのか、建築不動産の資産価値は向上するか、そのリアリティをもとに逆算的に事業を組み立てる。事業として自立できない事業は、そもそも事業ではない。
だから、まちづくりといえば補助金頼みだと思っている人たち、コミュニティという甘い言葉で盲目になり、お金の話を毛嫌いしがちな人たちに敢えて言うのだ。「Say money！（木下斉）」と。

スクールの前と後

リノベスクールは四日にしてならず

スクールはたったの四日間。それだけでスクールは終わらない。
スクールの役割の一つは、スクール後に対象案件を実事業化するための足がかりをつくること（前掲）。スクール後、いよいよ各ユニットの提案内容にブラッシュアップを重ねて実事業化へと向かっていく。その中で、案件オーナーの状況に応じて、場合により事業リスクを分担して、実事業化へとサポートするという必要不可欠な役割を果たすのが北九州家守舎（P.5参照）である。そして、当該事業によってまちの遊休案件が生まれ変わり、続々と新しい産業や雇用が創出されていく（P.11-12参照）。エリアに再び活気が宿っていく。リノベーションまちづくり、ヒトとマチが躍動しはじめるのである。
おそらく、自身が担当した受講生や講師陣などスクール関係者は、その実事業化案件の最初のファンであろう。次の受講生は、実事業化案件を見てモチベーションを益々高めるだろう。ここにスクール運営の好循環も生まれはじめる。

以上はスクール四日間の「後」のこと。実は「前」も同じく重要である。単に、各回スクール開催のための準備ということだけではない。もっと前。まちに散在する遊休案件の種たちが萌芽すること。つまり、遊休案件オーナーがストック活用の正しい知識を得て慣例化した新築至上主義から脱却し、ストック活用型社会へと意識改革を起こすことだ。
第4回スクールで新たに始まった集中講座「不動産オーナーのためのリノベーションスクール」はスクールの「前」として、リノベーションまちづくりの原動力として、遊休案件オーナーを育成していくことを意図している。



志士たちを待ち受ける、
リノベまちづくりの猛者たち。

総計
33名
第1回～第4回
ユニットマスター・レクチャー
五十音順

全国から集う志士たちを待ち受けるのが、
すでにリノベまちづくりの実践者として第一線で活躍している多彩な講師陣だ。
猛者たちは志士たちに容赦しない。むしろ必死だ。
なぜなら彼らにとってもスクール自体が実践の場なのだから。
受講生と講師陣との四日間の真剣勝負でおこる化学反応が、
スクールの最後に大きな成果と感動を生み出すことになる。



青木 純
(メゾン青樹)
第4回オーナー向けL



井手 健一郎
(rhythmdesign)
第2回L
第3・4回UM



大島 芳彦
(ブルースタジオ)
第1～4回UM&L



大月 敏雄
(東京大学)
第1回L



大西 倫加
(さくら事務所)
第3・4回L &
公開プレゼンモデレーター



岡崎 正信
(オガール紫波)
第3・4回L



梯 輝元
(中慶興産)
第2回UM



片岡 寛之
(北九州市立大学)
第2・3回UM



金箱 温春
(金箱構造設計事務所)
第2回L



木下 斉
(AIA)
第2～4回L



倉方 俊輔
(大阪市立大学)
第1回L



坂田 夏水
(夏水組)
第3・4回UM



佐々木 龍郎
(佐々木設計事務所)
第2回UM&L
第3回UM



貞國 秀幸
(コヤマコンセプト)
第1・2回UM



嶋田 洋平
(らいおん建築事務所)
第1・3回UM
第2・4回UM&L



島原 万丈
(HOME'S住まい総研)
第1回L



清水 義次
(アフタヌーンサティ)
第3・4回L



新堀 学
(新堀学アトリエー級
建築士事務所)
第1回UM



曾我部 昌史
(みかんぐみ)
第4回L



竹内 昌義
(みかんぐみ)
第1回L / 第4回UM



田村 晟一郎
(tamtamDESIGN)
第2回UM



田村 誠邦
(アークブレイン)
第1～3回L
第4回オーナー向けL



徳田 光弘
(九州工業大学)
第1～3回UM



長坂 常
(スキーム建築計画)
第1回L



納谷 新
(納谷建築設計事務所)
第1回L



西島 昭
(市蔵)
第4回オーナー向けL



西村 浩
(ワークビジョンズ)
第4回UM&L



馬場 正尊
(OpenA)
第1・3回L / 第4回UM



広瀬 郁
(トーンアンドマター)
第4回UM&L



松村 秀一
(東京大学)
第1回L



矢部 智仁
(リクルート住まい研究所)
第1・2回公開プレゼンモデレーター
第4回オーナー向けモデレーター



吉里 裕也
(SPEAC,inc)
第3回UM&L



吉原 勝己
(吉原住宅)
第4回オーナー向けL

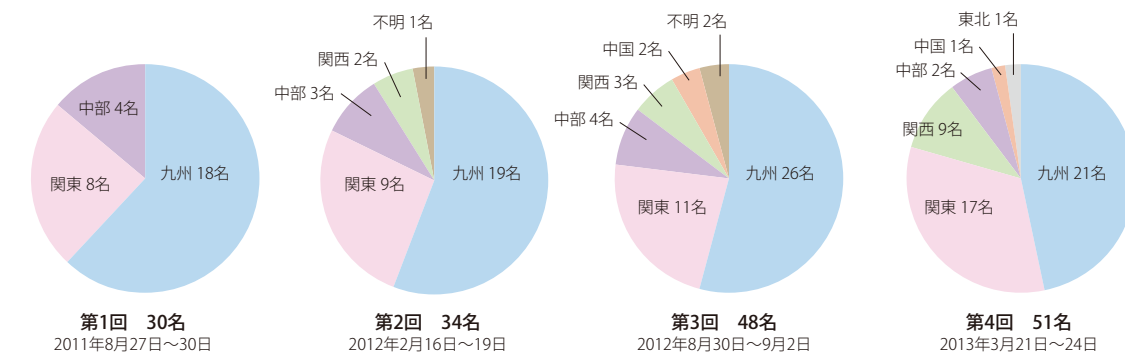
その他、これまでの公開プレゼンアドバイザー
内山博文 (リビタ)、菊池公平 (北九州銀行)、
松永安光 (近代建築研究所)、真鍋和博 (北九州市立大学)、
八木健太郎 (西日本工業大学)、和田克之 (コンダクト) 他

※UM:ユニットマスター L:レクチャー

世界的にも稀な日本の高度成長期における
新築優位の市場と教育の時代は終わった。
リノベーションとリノベーションまちづくりの知識と技術を得て、
新時代の社会を自ら切り開いていこうと全国の志士たちが集う場。
それがリノベーションスクールである。
回を重ねる毎に志士たちは全国に拡大中である。

第1～4回までの受講生の内訳

- 九州・沖縄／84名
福岡 68名
鹿児島 8名
大分 4名
熊本 1名
佐賀 1名
沖縄 2名
- 関西／14名
大阪 4名
和歌山 5名
奈良 2名
滋賀 2名
京都 1名
- 中国／3名
広島 3名
- 東北／1名
山形 1名
- 不明／3名
- 関東／45名
東京 25名
神奈川 11名
千葉 6名
埼玉 3名
- 中部／13名
静岡 9名
長野 2名
愛知 2名



全国から集まる、
リノベまちづくりの志士たち。

総計
163名
第1～4回までの
受講生

これまでに参加した受講生の声

- コンセプトがしっかりしている。実践的である。時間が限られている。この3点を自分の仕事に反映したいと感じ、実際のその通りであった。
- ユニットマスター・スタッフ・受講生ともに熱気にあふれ活気があった。レクチャーやユニットワークの内容が充実していた。
- 実案件を通じてのユニットワークは、とても現実的で想像以上でした。
- リノベーション一色だけでなく、プレゼンの手法や、収支計算など、四日間で一つのプロジェクトを完成させる方法をレクチャーさせてもらえて大変勉強になりました。
- スクールが扱うテーマのレベルが高い。ほとんど現業の事業計画と同じレベルだと感じた。
- 今まで様々なオーナーとの出会いの中で、計画中、施行中にモヤモヤしていたことの解決

方法を示してくれたように感じ、学生問わず様々な仲間たちから多くの刺激を受け、終わってみれば、「参加しなければならなかった」と思えるほど貴重な体験でした。
●レクチャーで知識を得て、ユニットワークで実践を学び、とても濃い内容の四日間が過ぎた。

自走していくマチとヒト、 リノベスクールがもたらしたこと。

小倉家守構想のもと進められている、リノベーションスクールを基幹としたリノベーションまちづくり。
それらは約2年で小倉にどのような効果をもたらしたのか？直接的な効果を見てみよう。
これら実績に触発されてテナントが埋まった事例や、各地で受講生が活躍しはじめた知らせも続々と届いている。



メルカート三番街 事業者数	38人
フォルム三番街 入居者数	24人
ポポラート三番街 事業者数	71人
MIKAGE1881 入居者数	13人
サンリオ小倉ビル 事業者数	45人
合計	191人

街に若い人たちが参画し、活躍でき、挑戦できる場。単に街でテナントを取り合うのでなく、新しい仕事の場を、新しい仕事のあり方を、そして新しい仕事を創り出すことがリノベまちづくりの醍醐味である。（2012年12月現在）



サンリオ小倉ビル



ポポラート三番街入口

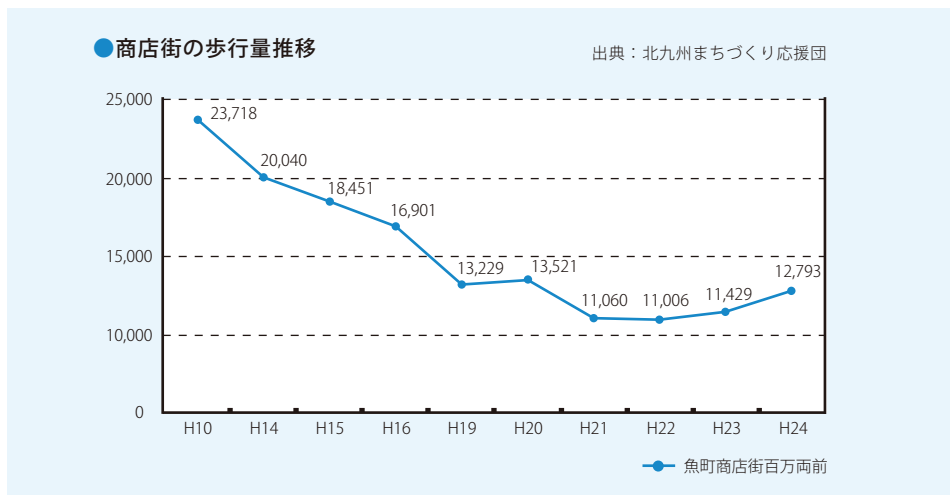
第1回スクールの対象案件。その後北九州まちづくり応援団の手によって、多国籍食品店、子育て支援施設、会議スペース等に（2012年9月オープン）。



経済縮退や人口減少、郊外大型店に進出により全国的に軒並み通行量が減少している商店街。商店街を見渡せばどこにでもある全国チェーン店がシャッターばかり。過去の栄光にいつまでもすがるのでなく、行政に頼るのでなく、自ら一歩前へ進むことで道が開ける。



魚町商店街百万両周辺



三番街講座	10回
サンロード商店街でのラジオイベント	5回
サンロード商店街でのよりみち市	5回
三木屋でのイベント数	約54回
MIKAGE1881でのイベント数	約14回
合計	約88回



MITCH LIVE with Hirozuki Tominaga at MIKIYA

あくまでカウントできた回数のみ。テナント入居者などによる自主開催イベントの多くは含まれておらず、すでにカウントできないほどのイベントが開催されている。様々なコミュニティの交流の場が、小倉の街中で新たに生まれている。（2013年7月現在）



よりみち市



実事業化案件が少なかった第1回スクールの反省点をもとに、第2回以降は不動産オーナーとの事前協議や状況把握を重視。現在も各案件オーナーと北九州家守舎を中心に計画中の案件多数。（2013年6月現在）

事業化

- 第1回 サンリオ小倉ビル
- 第2回 三木屋ビル（→三木屋）
松永ビル（→MIKAGE1881）
- 第3回 尾崎繊維ビル（→Rocota Cafe）

計画中

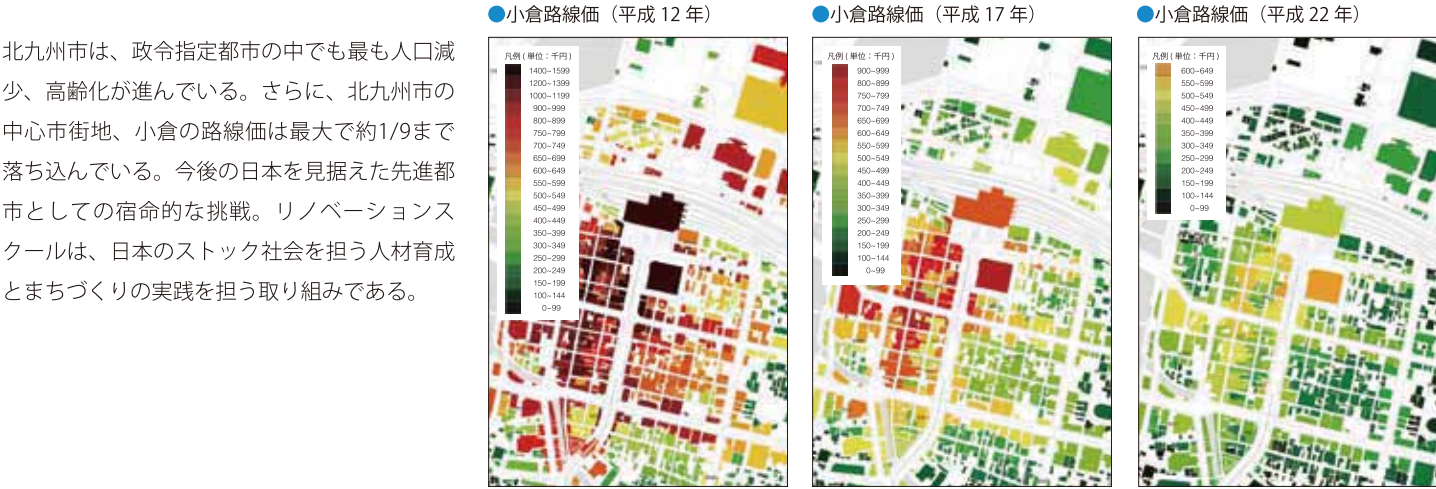
- 第2回 新米谷ビル
- 第3回 井澤ビル
中屋ビル
- 第4回 久光家
平井家
アタゴ書店
サンロード商店街

平井家跡地 オープンカフェ

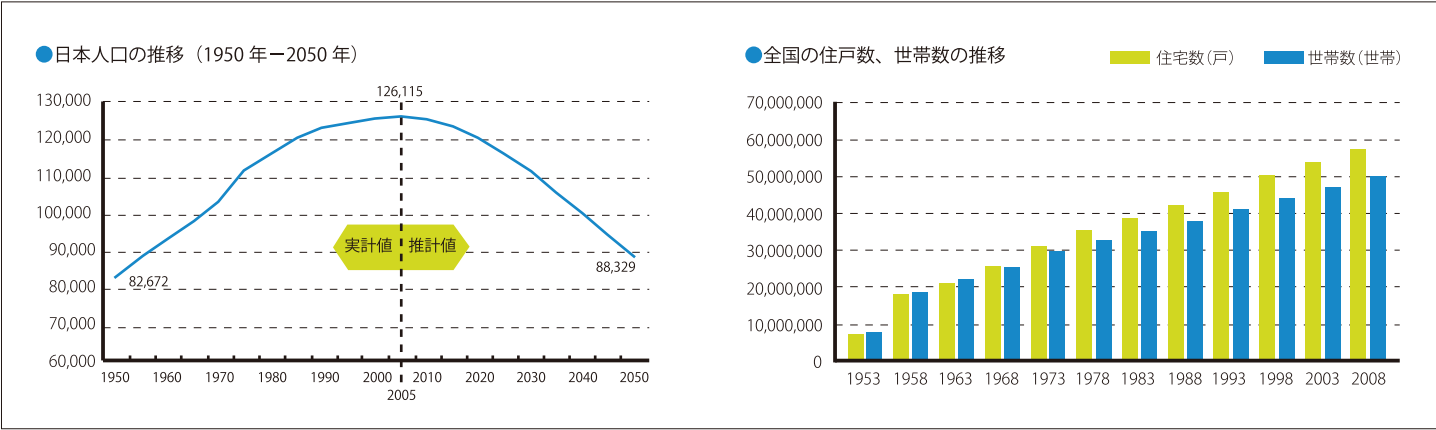


北九州の取り組みは 全国各地のモデルとなり得るか？

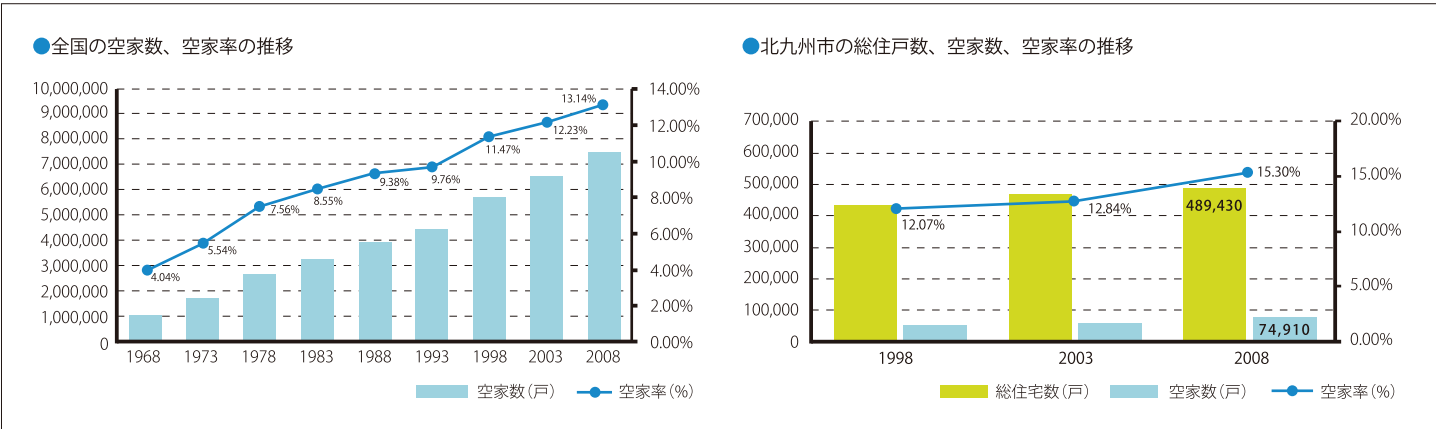
フローからストックの時代へ。北九州が抱えている課題は、何も北九州だけの課題ではない。
振り返って自身の住むマチを見ると、そこには遊休化してしまった不動産と衰退したマチがないか？
それらが生き生きとしたマチへ歩むためのチャンスの源だ。



日本の人口推移と住戸数・世帯数の推移



日本全国の空家率の推移と北九州市の実態



- | | | | |
|--|--|--|--|
| <p>●第 1 回スクール対象案件</p> <p>1 パゴダビル
北九州市小倉北区紺屋町 3-4
【構造・規模】RC 造 7 階建
【築年】1992 年（平成 4 年）</p> <p>2 コンダクト浅野 No.3
北九州市小倉北区浅野 2-17-38
【構造・規模】鉄骨造 8 階建</p> <p>3 サンリオ小倉ビル
北九州市小倉北区魚町 2-2-11
【構造・規模】RC 造 4 階建
※KALDI/ ママ友魚町</p> <p>4 ホテルクラウンパレス小倉
北九州市小倉北区馬場 1-2-1
【構造・規模】RC 造 9 階建・地下施設
※吉川精密株式会社敷地内にある
旧事務所と倉庫</p> <p>5 レンガ建造物
北九州市小倉北区高浜 1-3-1
【構造・規模】レンガ造 2 階建
※吉川精密株式会社敷地内にある
旧事務所と倉庫</p> | <p>●第 2 回スクール対象案件</p> <p>6 松浦ビル
北九州市小倉北区魚町 3-4-18
【構造・規模】RC 造 5 階建</p> <p>7 新米谷ビル
北九州市小倉北区魚町 3-3-24
【構造・規模】RC 造 3 階建</p> <p>8 三木屋ビル
北九州市小倉北区魚町 3-2-5
【構造・規模】木造 2 階建
※三木屋</p> <p>9 松永ビル
北九州市小倉北区魚町 2-1-7
【構造・規模】鉄骨造 6 階建
【築年】1988 年（昭和 63 年）
※MIKAGE1881（5 階）</p> | <p>●第 3 回スクール対象案件</p> <p>10 井澤ビル
北九州市小倉北区魚町 1-2-16
【構造・規模】鉄骨造 4 階建
【築年】1969 年（昭和 44 年）</p> <p>11 古船場ビル
北九州市小倉北区古船場 9-11
【構造・規模】RC 造
地上 3 階、地下 1 階建
【築年】1962 年（昭和 37 年）</p> <p>12 尾崎繊維ビル
北九州市小倉北区京町 4-3-10
【構造・規模】RC 造（1～3 階）
鉄骨造（4～6 階）
【築年】1967 年（昭和 42 年）完成
1973 年（昭和 44 年）4、5 階増築</p> <p>13 中屋ビル
北九州市小倉北区魚町 3-3-20
【構造・規模】RC 造
地上 5 階、地下 1 階建
【築年】1967 年（昭和 42 年）完成
1973 年（昭和 48 年）増築</p> | <p>●第 4 回スクール対象案件</p> <p>14 久光家
【構造・規模】木造 2 階建</p> <p>15 平井家
【構造・規模】—</p> <p>16 アタゴ書店
【構造・規模】鉄骨造 4 階建</p> <p>17 サンロード商店街
【構造・規模】約 107 メートル
【築年】1981 年（昭和 56 年）</p> |
|--|--|--|--|

【第 1～4 回リノベーションスクール @ 北九州 開催組織】

一般社団法人 HEAD 研究会（第 1～2 回主催）／北九州市（第 3～4 回主催）／北九州リノベーションまちづくり推進協議会（共催）／株式会社北九州家守舎／九州工業大学徳田光弘＋建築計画研究室／ TOBATA3rings／中屋興産株式会社／株式会社タウンマネジメント魚町／株式会社ユナイテッドヴィジョンズ／北九州まちづくり応援団株式会社／加賀誠人（PA 等）／魚町商店街振興組合／魚町三丁目町内会／鳥町四丁目町内会／株式会社島町ストリートアライアンス／株式会社ワークスプー／一般財団法人都市みらい推進機構／一般社団法人公民連携事業機構／株式会社リノベリング／九州工業大学／北九州市立大学／西日本工業大学

【スクールレポート編集】

編集長・執筆：徳田光弘 編集：古賀祐子 [B4]（九州工業大学徳田光弘＋建築計画研究室） アドバイザー：河野 靖弘（カワノデザインスタジオ）

【発行】

一般社団法人 リノベーションまちづくりセンター（2013 年 9 月 1 日第二版、2013 年 8 月 1 日初版）

リノベーションスクール レポート 01-04

2011年4月～2013年3月

